

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

石川県宝達志水町 国民健康保険志雄病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	7	-	ドI訓	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
13,449	5,116	第2種該当	10：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

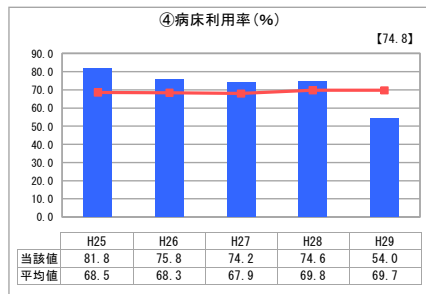
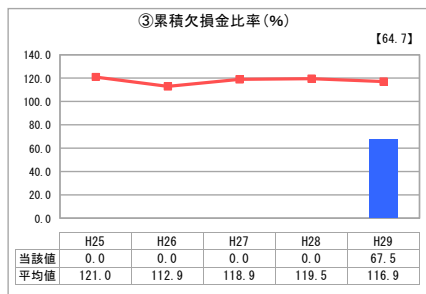
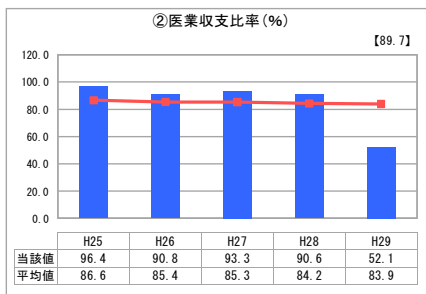
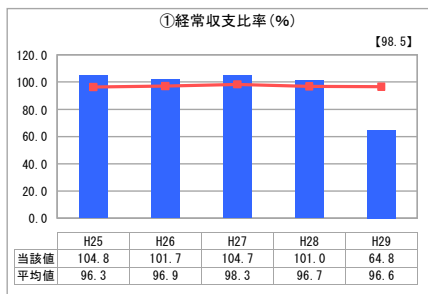
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	-
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	-	-

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性

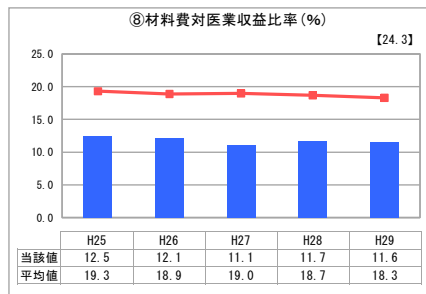
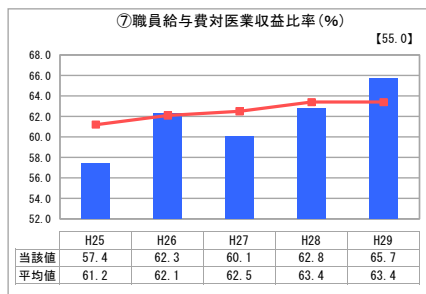
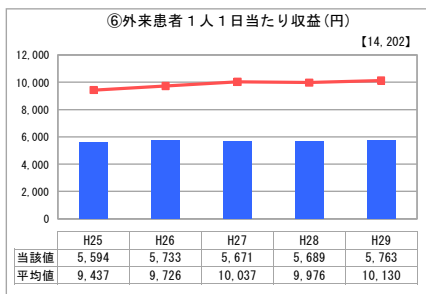
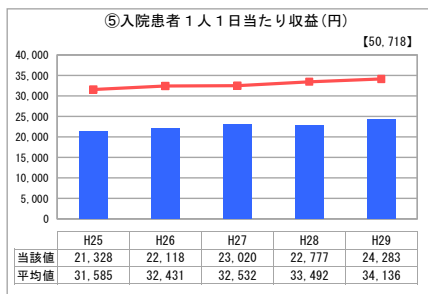


「経常損益」

「医業損益」

「累積欠損」

「施設の効率性」



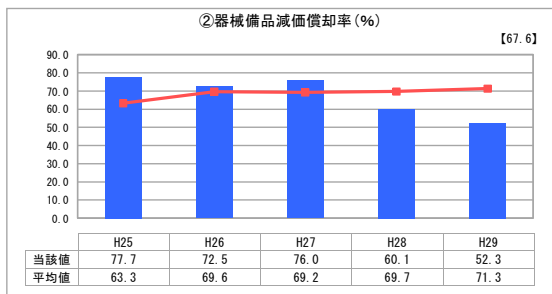
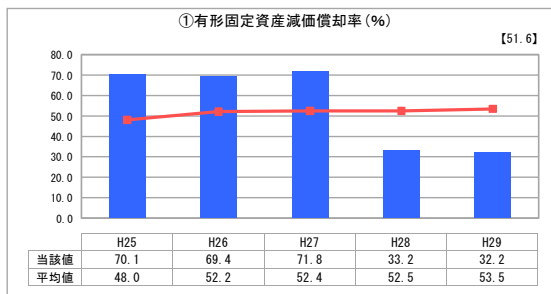
「収益の効率性①」

「収益の効率性②」

「費用の効率性①」

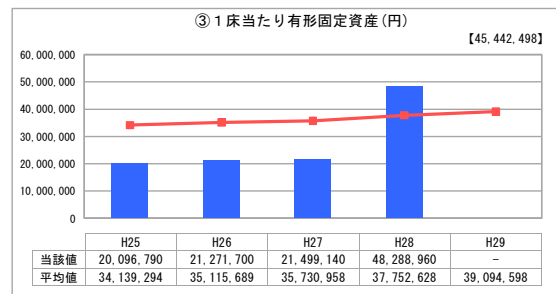
「費用の効率性②」

## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」

「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

国保直営病院である国民健康保険志雄病院は、地域に密着した病院として地域住民の健康と医療の確保のために果たすべき役割を継続して提供することが求められている。特に医療・保健・福祉（介護）の連携については、体制を強化し「地域包括医療・ケア」の更なる構築を図る必要がある。また、町の保健部門と連携して医療費の抑制策にも取り組むものとし、特定健康診査・特定保健指導事業を積極的に実施するものとする。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

国民健康保険志雄病院の経営状況は、平成14年度から平成28年度までの15年間、経常収支が黒字となり、平成24年度で累積欠損金は解消された。平成29年4月末で国民健康保険志雄病院を廃止したため、平成29年4月のみの1カ月の決算である。また、移転新築した上で平成29年5月に町立宝達志水病院を開設した。平成29年4月の決算は、平成29年5月から町立宝達志水病院を開設に際し、入院患者等を減らしたため収益が減り、引越しやシステム改修等の費用が増えた。このため、①経常収支比率、②医業収支比率、③累積欠損比率、④病床利用率が下がり、⑦職員給与と費対医業収益比率が上がった。これらも健全経営を目指すものであるが、今後は、建物及び医療機器等の減価償却費、企業債償還額が大幅に増えることが予想される。

### 2. 老朽化の状況について

国民健康保険志雄病院は、昭和38年3月に建築されたもので、以降増改築を繰り返した。古い建物は55年間経過していた。さらに、平成18年5月に実施した耐震診断の結果では、調査対象の4棟すべてにおいて耐震性能は不十分で、必要能力の4～6割の耐震性能であった。このため、移転新築することとし、平成28年2月に新病院新築工事に着工、平成29年3月末に完成、平成29年5月に町立宝達志水病院を開設することとした。以上により、平成29年度の国民健康保険志雄病院の決算については、平成29年4月の1カ月のみの決算である。平成29年4月については、町立宝達志水病院の開設に際し、必要な医療機器等を更新、新規購入等を行い医療体制の充実を図った結果、①有形固定資産減価償却率、②器械備品減価償却率が下がった。

### 全体総括

平成29年4月に国民健康保険志雄病院を廃止したため、平成29年度の決算については、平成29年4月の1カ月のみである。国民健康保険志雄病院は地方公営企業として、地域医療の確保のために自らに期待されている役割に基づき、住民に対し恒常的に良質な医療を提供するとともに、安定的な経営基盤を確保する必要がある。このことから、積極的に経営の効率化を図るものとする。

- 町立宝達志水病院建設後に起債の償還額及び減価償却費が増加するため、経常収支が当面赤字となるが、早期の黒字化を目指す
- 病床利用率、外来患者数の増加による収入確保
- 診療単価の引き上げによる収入確保
- 経費、材料費など費用比率の抑制
- 職員数の適正管理による人件費の節減

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。